

広報留萌 400号記念特集



市民生活に役立つ広報紙を目指して。

・昭和三十一年十一月三日、「広報るもい」として産声を上げた市の広報紙は、現在「Zing」として今月号で四〇〇号を迎えることができました。そこで、今月号では、その歩みや広報紙ができるまでなどを特集しました。

行政と市民の皆さんを 結ぶパイプ役

市民の皆さんに毎月お読みいただいている「広報留萌」は、行政と市民の皆さんを結ぶパイプ役として重要な役割を果たしていると考えています。実際、広報広聴担当係には、市民の皆さんからのお子さんの写真、絵など毎日たくさん届いており、担当者一同、皆

さんに読んでいただいているという実感を肌で感じ、更に充実した紙面作りをと意欲を燃やしているところです。原則として月一回発行され、留萌の歴史と共に歩んできた「広報留萌」。ここで留萌市の広報紙の歩みを見てみましょう。

市政と共に歩んだ 三十四年

市民の皆さんに毎月お読みいただいている「広報留萌」。市が広報紙の第一号を発行したのは、昭和三十一年十一月三日。当時は「広報るもい」というタブロイド版2つ折りの大きさでこの年に建設された施設の紹介や米の配給制度の改正などが主な内容でした。当時の全市の世帯数八一八三（人口三八一四六八人）。当時は総務課で発行していました。昭和三十五年九月十日発行第四十二年には、担当課が市民課市民係に変わり、記事内容は「市民のサービスと事務の合理化」「留萌市の財政事情」などとなり、広報に載った写真を市民の方にさしあげているサービスをを行っています。当時の世帯数九一四九

（人口三九六八八八人）昭和三十六年四月の第四十九号からタブロイド版からB5版サイズに変わり、内容も固い官報形式から写真やカットなども入れた読みやすい紙面作りを開始しました。昭和四十一年八月の第一〇〇号では「第六回留萌市民体育大会」の特集を行っています。世帯数一三二四一（人口四二一三一人）。昭和四十九年十一月の第二〇〇号では「ウランウデ市親善視察団と友好を確め、覚書を結ぶ」という特集を行っています。世帯数二二九四〇（人口三九三〇二人）。



昭和五十八年三月の第三〇〇号では、「中幌糠分校が閉校、さようなら、我が母校」という特集を行っています。ページ数一二ページ。担当が総務部企画課となっています。その後、時代に対応した紙面作りをと紙面の内容、写真もふんだんに使われ始めました。

そして、現在、これまでの「広報留萌」の紙面や文字の大きさをより大きくし、生き生きとした写真やイラストを使い更に市民の皆さんに親しまれるよう見やすい紙面作りを始めました。そして、今年の五月、第三九八号からは、道内自治体に先駆けて広報紙にネーミング（愛称）「Zing」をつけ、情報化時代に対応すると共に情報量の増大に対応した紙面構成を行っています。

手作りの広報紙 「広報留萌」

「広報留萌」は、企画、編集から取材、写真撮影・現像、レイアウト、校正まで職員の手作りで行われています。ここでは、「広報留萌」が印刷物として皆さんのご家庭



▲紙質もよくなりました。
(昭和41年8月 第100号)



▲タブロイド版からB5版へ。
(昭和36年4月 第49号)



▲広報留萌の愛称が「Zing」になりました。
(平成3年4月 第397号)



▲このころから12ページになりました。
(昭和58年3月 第300号)



▲広報るもいと産声をあげた頃。
(昭和31年12月 第2号)



▲表紙もカラーになりました。
(昭和49年11月 第200号)